



令和6年11月15日

南相馬市議会議長

会派名 友和会
代表者氏名 代表 今村 裕

調査研究報告書

- 1 期間 令和6年11月12日（火）～令和6年11月14日（木）
- 2 参加者 ① 今村 裕 ② 田中 一正
③ 中川 庄一 ④ 菊地 洋一
⑤ 大場 裕朗 ⑥
- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

研修報告

14日 廃校の利活用について

(令和6年11月12日 説明員 三好市地方創生推進課 川西 純司 主査)
R3:00~4:30

児童数の減少により小学校の増加で学校がなくなる事による地域活動の低下を危惧し、平成24年4月から専任職員1名の配置された。進め方としてまずは学校区での意見交換会や活用事業の公募等を実施すると共に、サテライト施設の誘致事業に着手。令和5年4月1日現在 福祉、野菜加工、食品加工、加工、民泊、合宿施設等、多岐に亘る分野に利活用されている。これにより、雇用の創出、移住・人口増、施設の長寿化等により、地域が元気に活気づいていると実感しているとのこと。『行政が主体的に進めざるを得なく地域住民や事業者の中心となり活用事業を展開している』との説明の印象に残った。

20日 国際バカリス教育について

(令和6年11月12日 説明員 香美市議会教育常任委員会 延岡 博幸 委員長
R1:00~4:30 香美市立大宮小学校 森田 卓志 校長
2:10~3:10 3:30~3:50

R1:20~2:10 授業風景参観 以降、ディスカッション、市立図書館見学

感想、一言で言えばバカリスの狙いは『発展的思慮や探究心の創造』
或いは『自己研鑽を積み、多岐に亘る視点で学び、グローバルな視野で活躍できる人材の育成』ではないかと感じた。

何れも各学年の子どもたちが目を輝かせ、思慮錯誤しながら取り組んでいる姿が印象に残った。

ひとつ危惧するのは、IB教育を取り入れた学校と未導入の学校間では児童の学力や思考力等に差が出る可能性がある。その差を埋める方法を早急に調査・研究が必要であるのではないかと
いうことである。

何れも配布された資料を添付し、参考にしたい。

令和6年11月15日
今村 裕